平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業　別紙様式２

東広島市立中央中学校の取組

研究テーマ
主体的な学びを育成する授業の創造
～　「論理的思考モデル」を導入した「課題発見・解決学習」を通して　～

授業実践①（プラン）

◆第３学年社会科　単元名「現代社会の見方や考え方　効率と公正」
◆本時の目標
身近な事例をもとに効率と公正について理解し，その観点からみんなが合意できそうな解決策を考え表現することができる。

◆生徒の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
自分の考えを論理的にまとめたり，他者にわかりやすく説明したりすることが苦手である。

特別な支援が必要な生徒の状況
A～集中できる時間が短く指示の聞きもらしが多い。
B～文章内容の把握やノートを写すなど作業に時間がかかる。

指導・支援のポイント
①事例の内容を予習させておく　②構造的な板書・ノート
③学習形態・表現方法の工夫　④授業の流れ・指示カードの提示

授業実践②実践の具体

① 事例の内容を予習させておく
・教科書を活用させる。
（各自事前にラインを引いて読む）
・内容等をプリントにまとめる。

② 構造的な板書・ノート
・キーワード（効率と公正）を図で示し提示する。
・板書と同じ様式で，思考過程がわかるノートを作らせる。
板書は最小限にし，ワークシートで補う。

授業実践②実践の具体

③ 学習形態・表現方法の工夫
○学習形態
・内容の説明，確認〔教える〕～全体
・思考・作業～個人→グループ→全体
個人でできるだけ考えた上でグループで話し合い，全体へ発表する。
・振り返り・まとめ～個人
気づきや感想，まとめを自分の言葉で書く。

授業実践②実践の具体

～個に応じた指導の工夫～

③ 学習形態・表現方法の工夫
○表現方法の工夫
・ホワイトボードの活用
簡潔にわかりやすく意見をまとめることに役立つ。
黒板に掲示して全体で比較や確認がしやすい。

④ 授業の流れ・指示カードの提示
・指示内容と設定時間等を順に提示する。

授業実践③成果・課題

○成果
①予習・ワークシートによって，事例の内容を十分に把握した上で段階的に解決策を考えることができた。話し合い活動にも積極的に参加し，ボードのまとめ方も工夫した。
②授業の流れ・指示カードを提示したことにより，設定時間内に自分やグループの意見をまとめ発表することができた。

○課題
①効率と公正のキーワードを用いて自分の考えを説明したり他者の意見を整理したりする。
②効率と公正の考え方を他の例でも応用できるようにする。

授業実践④今後の改善点

①振り返り方法・まとめ方の工夫

～・キーワードの使用　図式化
・ホワイトボードの活用
・他の事例への応用
・単元全体　生活との関連

②教材の工夫～・イメージしやすい教材の提示

普及・啓発①拠点教諭の取組

①研究授業・校内研修の実施

「通常の学級における特別支援教育の考え方を生かした授業づくり」

〇授業づくりの観点

生徒の実態

→全員が目標を達成するための指導の工夫

・構造的な板書　　・抽象的な概念の図式化
・指示・説明の仕方　・グループでの話し合い活動　など

〇各教科における指導法の工夫（教科部会）

普及・啓発②拠点教諭の取組

②連携・教育フォーラムでの実践発表

主　催　　広島大学大学院教育学研究科
　　東広島市教育委員会
参加者　　広島大学大学院教育研究科教員，大学院生
　　学部生　東広島市学校関係者
分科会　　「特別支援教育」
内　容　　通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業改善や集団への支援、個に応じた支援等について、実践報告をもとに協議を行った。

普及・啓発③拠点校の取組

～中学校区における情報発信～

小中連携の充実

〇生徒指導主事を中心に定期的に小学校と連携
〇小６見学会，小学校への出前授業　入学説明会

①生活面

・生徒指導規定の共有化
・立腰・黙想
・黙動流汗清掃

②学習面

・「東広島スタンダード」・学習規律の徹底
・学習環境の整備（教室前面の掲示は最小限に）

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	・指導方法の工夫 →学習意欲の向上 →授業への参加	・生徒の実態，指導の成果と課題の共有化 ・学級集団づくり
普及・啓発	・中学校区における授業づくりや支援の観点の共有 ・連携・教育フォーラムにおける参加者との意見交流	・授業や学級経営の実際を図る指標や評価方法 ・保護者，地域への情報発信

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	〇個別の指導計画の活用 〇生徒指導の三機能を生かした授業づくり
普及・啓発	〇校内研修の充実 発達障害や障害特性への理解 指導者の授業等への自己評価と客観的指標 〇情報発信 学年通信 東広島市立学校教育研究会等